

1 今年度の重点目標

一人ひとりが主人公となる学校～「有明らしさ」と「つながり」を重視した教育の実践～

2 今年度の経営方針

- 有明の「まなびづくり」・・・「分からなさ」を大切にしたい、全ての子どもが学び合う学び
 どの子どもも安心できる誰一人独りにならない聴き合う関係
- 有明の「こころづくり」・・・自ら課題を見付け解決できる自治・自律の育成と適切な支援
 教職員全員と子どもたち自ら育む『あこがれの6年生』
- 有明の「からだづくり」・・・自然・環境を生かしながら自然に体を動かしたくなる場づくり
 豊かな自然環境を生かした命と食の学びにつながるアカゲラタイム

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| No | 評価項目 | 自己評価 (A・B・C・D) | | 学校関係者評価 | | |
|--------|----------------------|--|---------|---|----------|---|
| | | 達成状況 | 状況改善方法等 | 自己評価の適切さ | 改善策等の適切さ | |
| まなびづくり | 1 主体的・対話的で深い学びの実現 | 児童は、友達と対話をしながら学習を進めていく力を伸ばしている。 | A | 分からない子や困っている子に寄り添う姿勢が身に付いてきている。互いの考えを聴き合いながら学ぶ姿がどの学年でも表れている。 | A | A |
| | 2 「課題探究力」の伸び ICT の活用 | 児童は、自分の興味関心に基づいて教科書や資料、ICTなどを活用して調べ、探究する力を伸ばしている。 | A | 国語や社会科、生活科や総合的な学習の時間の学習を中心に、資料やICTを活用しながら調べ学習を行った。調べる力・姿勢は徐々に育っている。子どもたちが学びの道具の一つとしていけるように、ICT活用に関しては、もっと取組方を考えていく必要がある。 | A | A |
| | 3 自主性・「有明おうちスタイル」の浸透 | 児童は、自分の課題や興味に基づいて、家庭学習に取り組んでいる。 | B | テスト前に苦手なポイントを中心に勉強するなど、目的がある場合にその達成のために学習する子は多い。しかし、普段の学習や家庭での学習に目的がない場合は、「自主的に家庭学習に取り組む」ことは難しいと思われる。家庭学習の取組方の指導や積極的な関わり、保護者との協力が必要である。 | A | A |
| | 4 学びの環境づくり | 児童は、授業開始までに学習用具を準備したり、身の回りの整理整頓に努めたりしている。 | B | 学習用具の準備はよいが、整理整頓については課題を感じる。身の回りの整頓ができていない子とできない子の差があるため、移動教室や休み時間には机の上に物を置いたままにしないということや、次の学習準備をしてから休憩に入るなど引き続き声を掛けていく。 | A | A |
| | 5 エコライフ・SDGs | 児童は、節電や節水、リサイクルなど、地球環境に優しいことについて考え、実際に取り組んでいる。 | B | ペットボトルキャップの回収や、図工の際にまだ使える画用紙を選定するなどの動きが見られる。しかし、教室の電気のつけっぱなしや水道の出しっぱなしを時々見かけるので引き続きSDGsの意識も含め指導していく。 | A | A |
| こころづくり | 6 生活目標の共有 | 児童は、有明小学校の生活目標【4つの「あ」】(あいさつ・あたま・あわせる・ありがとう)を大切に生活している。 | A | 4つの「あ」の意味は浸透していると思われる。学習の振り返りにもそれらを反映し、子どもたちもそれを基準に振り返るなどの活動も行っている。 | A | A |
| | 7 たてわり活動・LGBTQ | 児童は、性別や学年などに関係なく、互いに気持ちよく過ごせるように協力している。 | A | 学年関係なく仲良く過ごすことができている。高学年は低学年への優しい関わりもあり、様々な個性を尊重しながら生活することができているように感じる。 | A | A |
| | 8 いじめ防止・情報モラル | 児童は、多様な相手の気持ちを考え、言葉遣いや行動に気を付けて生活している。 | B | 多くの子が周りの子と助け合おうという思いをもち、他の子と上手に関わることができている。しかし、自分中心の判断による言動、行動も見られるため、教職員で共通理解を図ったうえで、子どもたちに考えさせる場を設けて継続して指導していくことが必要である。 | A | A |

| | | | | | | | |
|-----------|-----------|-------------------------------|---|---|--|---|---|
| | | | 児童は、いじめはしてはいけないことを理解して生活を送っている。また、学校は、困ったときには児童や保護者が相談できる体制が整っている。 | A | いじめがいけないという理解は浸透している。また、担任だけでなく、養護教諭や担任外など複数の教員に相談できる環境・体制が整っており、子どもたちは場合に応じてヘルプを出すことができている。スクールカウンセラーの効果的な活用も進んでいる。 | A | A |
| | 9 | 感謝、他者意識、公共心・公德心 | 児童は、お世話になっている人たちに進んであいさつをしたりや感謝の気持ちを伝えたりしている。 | A | 高学年を中心に、朝だけでなく、廊下ですれ違ったときに挨拶をする子が増えてきたように思う。形が決まっている挨拶場面だけではなく、それ以外の場面で、自然に挨拶ができる子が増えていくよう、挨拶や感謝の気持ちについて、改めて考えさせていく。 | A | A |
| からだづくり | 10 | 外遊びの充実 | 児童は、休み時間、自分から進んで外や体育館などで体を動かして遊んでいる。 | A | とてもよく体を動かしていると思う。今後も、自然・環境を生かしながら自然に体を動かしたくなる場づくりを行っていく。 | A | A |
| | 11 | 健康（病気・けが） | 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 | A | 自然環境を大いに生かして遊んだり学習したりすることを通して、多くのことを経験し、できることが増えているように感じる。しかし、怪我や事故が心配なので、引き続き安全に関わる指導を徹底していく。 | A | A |
| | 12 | 健康（食育） | 児童は、メニューや栄養のバランスに興味をもち、給食をしっかり食べている。 | A | しっかり食べようという意識が定着している。一部の子は食べることが苦手な子もいるため、食べようという姿勢を評価しながら接していく。栄養バランスを考え抜いた献立なので、今後も標準配膳から大きく離れないことを心掛けていく。 | A | A |
| | 13 | 「防犯」への意識、バス通学等 | 児童は、普段から防犯ブザーの携帯や登下校時の安全など、防犯を意識して行動したり、万一の時に、自分の身を自分で守ったりする方法を理解している。 | A | 他校より防犯への意識が高い子が多いと思う。バスマナーについて話題になることもあるため、学校と保護者が連携して継続して指導を続けていく必要がある。 | A | A |
| 有明らしさ | 14 | 豊かな自然環境 保護者のボランティアの協力 | 児童は、「アリアケタイム」の活動を通して、自分の力に応じて体力をつけたり、運動の仕方を工夫したり、粘り強く最後まで取り組もうとする気持ちを育んだりしている。 | A | クロカン走、持久走でお互いに励まし合いながら取り組む姿がよかった。今年度はどの子も自分なりに粘り強く取り組んでいた。体を鍛える場面が意図的に設定されており、着実に体力が付いていっている。保護者ボランティアの皆様の協力にも支えられており、感謝している。 | A | A |
| | 15 | 恵まれた音楽環境 PTAのバックアップ（楽器修繕費） | 児童は、「ハーモニータイム」の活動を通して、音楽への興味・関心を高めたり、演奏することの喜びを感じたりしている。 | A | 苦手なところを諦めずに練習したり、他の子に教えたりする姿が多く見られた。パート内の高学年の児童が下級生を支え、少しずつ育てていく姿があった。それにより、できるようになる喜びや助ける喜びを感じ合っていた。また、練習を支えてくださっている保護者ボランティアの皆様に感謝したい。 | A | A |
| | 16 | 豊かな自然環境 農体験リーダー | 児童は、「アカゲラタイム」を通して、自然や植物の成長について興味をもったり、働くことの大切さを学んだりしている。 | A | 農体験リーダーの関わりのおかげで、植物に対する理解や成長に喜怒哀楽する姿が多数見られた。しかし、水やりや雑草抜きなど、日常の世話などが一部の子どもの自主的な活動に支えられていたようなので、見直していきたい。また、収穫後の管理や後片付け等も目を向けていきたい。 | B | A |
| 評価委員による意見 | | | まなびづくり・こころづくり・からだづくり・有明らしさ ○地域住民に支えられながら教職員が一体となり自然環境・地域特性を生かしたカリキュラムが組まれている有明小学校で学ぶことのできる児童は幸せである。 ○時代の変化に対応しながら、有明の環境面を生かしつつ、子どもたちが成長し、自立しているように感じた。また、自己評価と改善の適切さが全てよいと思う。 ○自然環境を生かしたクロカン走、アカゲラタイム、樹間スキーツアーなど、有明小学校らしさを継続してほしい。 ○アカゲラタイムは、動植物の多様性や食の大切さを学ぶ大切な機会である。児童の学習意欲が更に高まることを期待している。 | | | | |
| 職場づくり | 17 | 【働き方改革】 | 保護者に教員の働き方改革の必要性等を説明し、必要な業務改善を行っている。 | A | 諸会議の在り方検討、校内環境の整備、「すぐる」の活用など、様々な業務改善を行うことができた。また、学習ボランティアの協力など、保護者も学校のために活動してくれている。次年度に向けて、持続可能な教育課程の編成に取り組んでいく。 | A | A |
| | 評価委員による意見 | | | ○業務改善が進んでいるようだが、元気に働く教職員の姿が児童への一番の応援になる。これからも情報の共有化を進め、保護者と地域住民の理解・支援をいただきながら業務のスリム化を進めてほしい。 ○子どもたちに関わり、教える立場の難しさや、保護者との関係性も年々たいへんな部分があると思うが、教職員の環境を整えていく必要性が今後も大切であるとする。 ○いつも限られた時間と人材の中で頑張っていたいただき感謝している。 | | | |